

教育課程編成・実施の方針(カリキュラム・ポリシー)

ソフトウェア情報学部は、卒業認定・学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)に掲げる専門的知識・技能と「3つの力」を修得させるために、青森大学基礎スタンダード科目、専門教育科目、教職に関する科目を体系的に編成し、講義、演習、実習を適切に組み合わせた授業を開講する。科目間の関連や科目の難易度を表わす科目ナンバリングを行い、カリキュラムマップを作成し、カリキュラムの体系性を明示する。本学部における具体的な教育内容、教育方法、教育評価については、以下の方針を定める。

1. 教育内容

①青森大学基礎スタンダードでは、情報工学の学位プログラムの基礎として、3つのコアから成る全学共通の教養教育を行う。

- ・「教養コア」では大学への適応力と確かな教養を涵養する科目を置く。
- ・「技能コア」では語学やITリテラシー等の実践的スキルを獲得する科目を置く。
- ・「創成コア」では学内外の社会的活動に参画できる主体的能力等の伸長とキャリア形成等を促す科目を置く。

②専門教育においては、専門分野の体系性に基づいて科目ナンバリングを行い、カリキュラムマップを作成し、学年・学期別の科目配当を行う。

- ・情報工学の基礎として必要な数学、物理学に関する科目を配置する。
- ・ネットワークとプログラミング、CG・マルチメディア、インテリジェントシステムの分野にわたって科目を配置し、コンピュータやオペレーティングシステムの動作原理、ネットワークや組込みシステムの仕組み、コンピュータグラフィックスの技術、プログラミング技法等を体系的に学ぶようにする。
- ・1年次に「ソフトウェア情報学基礎ゼミナール」を配置し、初年次教育を行うとともに、研究室に配属して早い段階から研究に触れることで、4年間の目標を意識できるようにする。
- ・1年次に「プログラミング演習I、II」、2年次に「プログラミングワークショップI、II」、3年次に「開発ワークショップ」および「創作ゼミナール」、4年次に「卒業研究」を配置し、プログラミング能力のみならず、問題解決能力やコミュニケーション能力を段階的に修得できるようにする。また、学内外との連携の取組みにより、それらの能力をより確かなものにできるようにする。
- ・「創作ゼミナール」では、各学生をいずれかの研究室に配属し、テーマの設定から、開発、成果発表までを経験させ、総合的かつ創造的な能力の養成を目指すと同時に、就職活動にも生かせるようにする。
- ・「卒業研究」では、それまでに身に付けた知識を駆使し、また、指導教員や他の学生との議論、文献調査等を行いながら、一つのテーマについて研究・開発を進め、自律的・継続的研究能力やソフトウェア技術者に必要な総合力を高めることを目指す。
- ・各種資格試験（基本情報技術者試験、ITパスポート試験、CGエンジニア検定、CAD利用技術者試験）への対応を意識してカリキュラムを編成し、受験対策支援を行う。

2. 教育方法

①CAP制を実施し、1年次から卒業年次まで、各学年の履修科目数に上限を設け、それぞれの科目に十分な学修時間を確保できるようにする。

②3年次、4年次の中心科目を履修するために必要な履修状況に関する条件を設定し、学習の順次性を確保するとともに、中心科目に集中して取り組める学修環境を担保する。

③アクティブ・ラーニングを積極的に取り入れ、学生の主体的学修を支援できるようにする。

④少人数教育を演習、実習等で実施し、学生の能力・資質に応じた学修ができるようにする。

- ⑤授業外学修の内容と時間をシラバスに明示し、学生が授業の予習・復習や応用的活動を通して自律的な学修ができるようにする。
- ⑥地域の高等学校、企業、NPO、自治体等と連携して、学生の主体性やコミュニケーション能力等の汎用的能力を高めるために、実践的な教育方法を積極的に取り入れる。
- ⑦担任制をとり、入学時から卒業までの学修のアドバイスや就職支援を行う。

3. 教育評価

ソフトウェア情報学部では、卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）に照らして、学位プログラムの課程と学生個人の学修の成果について客観的データの分析やルーブリックによって評価し、改善を図る。

- ①学位プログラムの評価は、卒業・進級判定、カリキュラムマップ、科目ナンバリング、GPAの活用、学修行動調査、「3つの力」の達成度調査、シラバス記載内容等の実態把握に基づいて総合的に行う。
- ②学生個人の教育評価は、卒業要件単位数の充足、「卒業研究」、GPAによる判定、「3つの力」の達成度、専門分野の知識・技能を活用した創造的活動や地域社会と関わる活動等の成果に基づいて総合的に行う。